

2020年 7月28日(火)~8月2日(日)

9時~17時 最終日:16時

岡山県天神山文化プラザ(第二展示室) 岡山市北区天神山町8-54
tel086-226-5005

縄文スパイラルアーツ

JOMON SPIRAL ARTS

生命の大地/2017年
村上原野作
(Photo by 廣川 慶明)

入場無料

オープニングセレモニー
& ギャラリートーク

日時: 7月28日(火)
13:00~15:00

・各作家による作品解説
・縄文大地の精霊ダンス
・フリーセッション

縄文アーティスト集団「縄文スパイラル」は現代縄文アートを発信する初の展覧会「縄文スパイラルアーツ」を開催します。私たちの芸術活動は、縄文土器・土偶の模写から体得した“縄文の心と技”を基盤として、今日の縄文芸術として〈復活-体得-創造〉させ、「現代に生きる己の感性」によるニュー縄文造形を創出する活動を推進するものです。その作品は、大自然と大地から湧き立つ豊穰なる精気・霊気をおおらかに表象した生命のドラマを彷彿とさせるものです。中でも縄文アーティスト村上原野作品の、精密で重層的に渦巻く文様表現の創造性は圧巻である。この展示会は、“生命と魂のデザイン”である縄文造形と縄文スピリットが新しい創造の源泉となり、現代芸術シーンに縄文アートのビッグバンを起こす芸術アクションとなるでしょう。

後援(順不同):岡山県、岡山市/新見市/新見市教育委員会/山陽新聞社/朝日新聞岡山総局
/毎日新聞岡山支局/読売新聞岡山支局/RSK山陽放送/OHK岡山放送/TSCテレビせとうち
/KSB瀬戸内海放送/RNC西日本放送

推薦人(順不同):石田米子(岡山大学名誉教授)/沖陽子(岡山県立大学学長)
/奥津亘(弁護士)/北川文夫(岡山理科大学)/松本直子(岡山大学院教授)

主催  縄文スパイラル

〒719-2552 岡山県新見市法曹609
連絡先 猪風来美術館 TEL・FAX 0867-75-2444

JOMON SPIRAL ARTS

大自然と宇宙の生命波動、生と死と再生への畏怖・祈りの世界観が表現された1万年の始原の
アート世界～縄文芸術。ひたすらに心を沿わせてきた縄文のカタチ。縄文の心と技に学び現代
に生きる己の感性で土と炎と大自然と向き合い、新時代の美を求めていく縄文アーティスト集団
の誕生です。縄文の新しい渦が新星のように生まれてゆく時代を切り拓いていきます。

ARTIST PROFILE

猪風来 縄文造形家
広島県出身 新見市在住



千葉県加曾利貝塚博物館土器作り
同好会にて縄文土器の復元活動。
1986年より北海道にて竪穴住居と
自給自足の縄文暮らしと縄文造形
作品多数創作。海外での土器野焼
き探訪や縄文の講演や野焼き実演
など。2005年岡山県新見市に日本
唯一の現代縄文美術館である
「猪風来美術館」開館。



むらかみよしこ 染織作家
岩手県出身 新見市在住

縄文スピリットにふれ、地球のあら
ゆる命とつながる魂に魅了される。
草木染の深く多彩な色を使い命の
記憶をたどる旅を綴織で表現。



村上原野 縄文造形家
北海道浜益村出身 新見市在住

縄文土器「土偶の徹底的な模写から
体得した縄文の心と技を基盤として
「現代に生きる己の感性」による新た
な縄文造形を創出している。近年では
国内外で活動を展開。その技量と根拠力
が現代縄文芸術の若き旗手として高い
評価を受けている。



北村ますみ 縄文作家
愛媛県宇和島市出身 福山市在住

2017年1月猪風来美術館に初めて
訪れ、縄文の深さと館の雰囲気
に惹かれ何回か陶芸教室へ。退職を
機に美術館へ通ううちに、ハマって
しまった。
「縄文土器って、まさに現代アート！」



土田哲也 縄文土器作家
新見市哲西町出身在住

法曾の地で縄文土器に出逢ったとき一万年
の時を経て縄文の記憶は完全に呼び覚ま
されました。それから10年縄文土器と向きあい
、作り続け、熱帯雨林に出逢った植物のかたち
を土器の中に入れ込みながら創作しています。



中山裕那 縄文創作家
北九州市生まれ 岡山市在住

人の心に寄り添う作品を志し、お地
蔵様やシーサー等を制作し各地で
作品展を行う。2014年 猪風来の
縄文造形と縄文野焼きに感動し、
以来、猪風来美術館に通い縄文土偶
の創作を続ける。



兵頭百華 縄文アーティスト
倉敷市出身在住

2019年7月に猪風来美術館にて縄文土器
作りを体験。土に触れ形を作りだす楽しさ
縄文の奥深さに感銘を受け、その後模写
制作を始める。現在は縄文の精神性や土器
作りの技術を今後の創作活動に活かすため
に学んでいる。



小野真由美 縄文土器作家
岡山県生まれ

2015年春の縄文野焼きで大地と炎
の子宮を目の前にして、縄文に目覚め
猪風来の教えを受けながらひたすら
作り続ける。現在 大山・岡山を拠点
に創作活動・個展・縄文煮炊きを行っている。



米本久美子 画家
岡山市在住

先住民の世界に惹かれ絵本の仕事
にも携わり始める。2013年に猪風来
美術館で家族で土器制作「野焼き祭
り」を見て以来縄文にハマる。今では
「女たちの野焼き」にいつまで参加
できるか挑戦中。



荒川悠 “月の村”デザイナー
新潟県長岡市出身 総社市在住

火炎土器出土の地生まれ。タイの
田舎で村づくりをしていた夫と出会
い結婚。2013年、猪風来美術館で
縄文に出会う。「いのちの造形」に
魅了され、土器づくりをはじめ。

【特別出展】



谷本明久 画家
岡山県高梁市在住

昭和9年10月8日生まれ
独立美術協会会員 画歴48年
近年は縄文をテーマとして、筆のかわりに
「縄」そのものを画具とした油彩画を
制作している。



小山麻衣子
(縄文大地の精霊ダンス・ゲストダンサー)
岡山市在住

ダンス修行でギニア共和国へ渡航。中国、フランス
でパフォーマンスやワークショップを行う。腹の底
から渦が湧く ハートが震えて、私自身が渦になって
土器から受け取って私を通して生まれてくる動き
を楽しみに踊ります。